

平成25年度 山口県文書館古文書実践講座テキスト

2 城下町萩の地誌(三)

—阿武郡萩市中故事—

美言町
夷町

今迄く美言町といふは僅か法郎志夷
法神社の田沼さうしを内務とせし
けふは法郎志夷といふ一法に法郎志夷
をといふさうしを内務の各と夷今ハ
とせし

法郎志夷の角切法とて天候と云法
の角切とて天候と云法の角切とて

Handwritten notes on the right page, including a small rectangular stamp or mark on the right edge.

懐中包
名取

藤名物

田町

東尾三町
後小市店

新元

[Faint, mostly illegible handwritten text]

蘇子卿
紙包可

自注河三東、吾後、少少之喜、好、思、欲、者、
上、汝、弟、亦、不、似、在、貴、一、高、春、教、之、居、何、矣、
汝、亦、矣、

汝

汝

蕨系地

古奥棚町

富后町之東是後町一町目之山に在り
此町を奥棚と云ふは海邊に在り
有て奥棚は山邊の地也故に古奥棚と
云ふ

山

山

山

山

義和團

郭外之郭

郭中封疆之公城門之東有橋川
去本川以内郭外之云是別河
橋外之地也

新堀川

百斤河之南有郭中封疆以水之堤
川之支流之郭外封疆之堀川古古來
多郭外之堀川也

橋の度復造新造川古新造の遺
河に舎屋並山に上云二月十九日
書中大久保如野吉及林仁右持系同
其下以之於法修付迄之形に川を向う其
郭外之水を分て度想に力に隊也一也不
海の乾満之有流を命し宗祇厚橋十日
用小船定を得たり故に古對三ヶ所
川に之元造新造平尔平一と大匠之造り
方後造り田とあり

菟市衛
斤河橋

新造川之西斤河之南有斤河筋分有流
之為不物堀川形も支下之橋也故に
有元小橋也三徳兼中石橋北陽橋也
中

斤河階級

西
右斤河之南筋下之南之階級
東南之位し故小舟之橋階級
此乃此之信用法故に流石之石

名山集 恒溪 階級を化し用ひしなり
新志 在世人又記云

西城記曰青嶺此婆羅王將往佛所乃斬石通
谷疏岩導川武聖武鑿巖作為階級以至佛所云

階級一名雁齒橋年ト云リ俗ニテ齒橋年ト云雁水

字ヲ用タリ雁水ハ堂前床下又ハ山及階脚ニ架梁

ニ化リ又石ハ便リカキ新ハ石を以テ之を化ル

其秋一ハ進三ハ近ク滿雁の形列又ハ人歎言

齒之長クももろくも似たり故ニ雁齒とシテ

齒端齒端と唱多クハ其音ニ從違多ク其音を

亦と化し其し似多ク也ハ斯の正く其を以

得く雁水と文字を用い事多クも從違多ク也

なる

遊仙窟曰珠玉懸階參差於雁齒註曰一室者刻木而列石為之

其秋一前一却如之人行烈人鳥牙齒之秋今人作床下又作階脚皆果符作之云

和名抄道路具第百四十三曰雁齒白氏文集云鴨頭

新水小紅橋云